

新潟市文化財センター年報

第1号

—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—

2014

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第1号

—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—



県指定考古資料 的場遺跡出土品（県指定史跡 的場遺跡）

2014

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設 置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査等により出土した考古資料（以下「考古資料」という。）の収集及び保存並びに公開その他の活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る700か所以上の遺跡が知られています。平成17（2005）年の14市町村の広域合併後の各種開発事業等の増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどり、新たに発見される遺跡も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

当センターは各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月にオープンしました。

センターには、民俗資料収蔵庫も併設されており、併せて市指定文化財の旧武田家住宅を移築復元しています。



文化財センター エントランス

例 言

- ・本書は、Ⅰ・Ⅱの各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査と、Ⅲ～Ⅴの文化財センターと史跡古津八幡山遺跡歴史の広場の業務年報、Ⅵ付編の資料紹介等について収録したものである。
- ・年報は本来毎年刊行すべきものであるが、平成23年度版が未刊行のため、本書では平成23年度・平成24年度の2か年分について収録した。平成25年度版以降は毎年刊行の予定である。
- ・本書は文化財センター・歴史文化課職員が中心になり、分担執筆した。執筆者の氏名は各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一をはかるために内容が変わらない範囲で編集者が若干の字句の修正を行った。
- ・Ⅱ 2、Ⅲ 3・4の試掘確認調査・本発掘調査・工事立会は主要なもののみを掲載した。
- ・付編には、齋藤秀平氏旧蔵の考古資料2点と日本海から引き揚げられた考古資料11点を紹介している。和納館跡出土の木簡は再調査により明らかになったものである。
- ・付編掲載遺物の実測・トレース等は文化財センターで行った。
- ・本書の編集は渡邊朋和・八藤後智人・金田拓也・相澤裕子が行った。

目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	4
1 事前審査内容	4
2 平成23年度・24年度の前審査に係る試掘確認調査の概要	7
Ⅲ 文化財センターの事業	25
1 発掘調査の概要	25
2 本発掘調査・工事立会	27
3 平成23年度の本発掘調査・工事立会	28
4 平成24年度の本発掘調査・工事立会	35
5 整理作業の概要	46
6 資料の収蔵・保管	47
7 教育普及活動	51
8 保存処理	61
9 決算額	64
Ⅳ 文化財センターの概要	65
1 開館に至る経緯	65
2 組織と職員	67
3 施設	68
Ⅴ 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場	72
1 史跡古津八幡山遺跡保存整備活用事業の概要	72
2 教育普及活動	75
3 古津八幡山古墳確認調査の概要	77
Ⅵ 付編 資料紹介等	79
1 齋藤秀平氏旧蔵の縄文土器・土師器	79
2 新潟市西蒲区角田山沖発見の縄文土器	81
3 新潟市西蒲区弥彦山沖発見の珠洲焼	82
4 新潟市西蒲区角田山沖発見と伝えられる珠洲焼	84
5 佐渡近海発見の珠洲焼	86
6 新潟市西蒲区和納館跡出土木簡	89
7 古津八幡山遺跡における古代米及び畑作物の栽培実験について	90
引用・参考文献	92